

## 医政メモ Q&A

### 医師会将来ビジョン委員会の報告書

日医の医師会将来ビジョン委員会は「将来の医師会活動及び医療制度のあり方」という報告書をこの3月にまとめました。この委員会は若い医師たちに医師会の将来について既存の考えに縛られることなく自由闊達に議論してほしいという趣旨で立ち上げられたもので、1998年から2002年に設置された未来医師会ビジョン委員会が9年ぶりに名前を変えて設置されたものです。全国から招集された若手医師たちが合宿形式の討議も含めながらディスカッションを重ねて作り上げたものです。ここではそのうちこれまでの医師会の考え方と大きく異なる点、つまり医師会による保険医の登録、フリーアクセスの概念の変更、自己負担率の調整の3点に焦点を合わせてQ&A形式でご紹介したいと思います。

**Q：まず委員の構成メンバーを教えてください。**

**A：**全国8ブロックから推薦された30～40代の若手医師から構成された委員会です。北海道ブロックからは30代として当会政策委員会副委員長の荒木啓伸先生（荒木病院院長）、40代として私が参加させていただきました。

**Q：医師会による保険医の登録をめざす理由はなんでしょう？**

**A：**医師会が保険医の登録業務を行うようになれば、重大な倫理規定違反者に対する保険医の資格停止や認定取り消しなど、国民にとって実効性のある懲戒処分を医師会自身が行うことになり、自律的な組織として自浄作用を発揮できるようになるからです。そうすることで国民に対してこれまで以上に良質で信頼される医療を提供できるようになると考えています。ただ現在の日本医師会はいまだに

世間からは開業医の代表であるといったレッテル、政治的圧力団体とか欲張り村の村長といったイメージを払拭できておらず、医師会による保険医の登録を国民に納得してもらえない環境にはありません。そこで丁寧に現在の医師会活動を広く人々に知らせ、日本医師会が名実ともに日本の医療の総まとめの団体、全医師を代表する団体であるという立場を確立させることをその必要条件としています。

**Q：フリーアクセスに対する概念はどのように変えるのでしょうか？**

**A：**日本の医療の特徴はフリーアクセスにあると言われていています。確かに保険証1枚あれば、いつでもどの医療機関でも受診できることが日本国民の寿命を延ばし、公衆衛生を向上させてきました。しかしながらこの便利さがコンビニ受診や重複受診、ドクターショッピングを助長させてきたとの批判もあります。そこで「どの医療機関にかかってもいい」という概念から「医療システムのアクセスには制限を設けない」という意味に変更することを提案しています。具体的には受診する医療機関や紹介状の有無でその外来自己負担割合を変更しコンビニ受診の抑制を図ろうとしていうものです。

**Q：では実際に外来自己負担割合をどのようにしようと提案しているのでしょうか？**

**A：**まず医療機関をDPC病院、その他の病院、診療所の3つに分けて考えています。また受診患者についても小児、一般、65歳以上と3つに分けて考えています。一般の人たちについては、診療所を受診する場合の自己負担割合を10%、DPC以外の病院を30%とし

て診療所に外来受診を誘導することを提案しています。DPC病院については紹介状があっても50%、紹介状がない場合は100%の負担として入院患者の診療に忙しい勤務医の疲弊軽減を目論んでいます。65歳以上については紹介状がある場合の病院受診時の負担割合が一般の人たちよりも少なくなっていますが、紹介状なしでDPC病院を受診する場合は一般の人と同じく100%の負担です。小児については親の都合による安易な時間外受診

を抑制するため、診療時間内の受診か時間外の受診かでその負担割合を変えています。つまり時間内であれば診療所受診負担割合0%、DPC以外の病院10%、DPC病院30%と少子化対策の一環もあり一般の人たちよりも自己負担割合を抑えています。時間外の場合には診療所10%、DPC以外の病院30%と負担が増し、DPC病院への時間外受診にいたっては100%負担と一般の人たちと同様に容赦ありません。

表1 外来自己負担率案

		小児（12歳未満）		一般		65歳以上	
		時間内	時間外	紹介状有	紹介状無	紹介状有	紹介状無
病院	DPC	30%	100%	50%	100%	30%	100%
	その他	10%	30%	30%	30%	20%	30%
診療所		0%	10%	10%	10%	10%	10%

ここでは報告書のうち3点にしぼって紹介させていただきましたが、答申書そのものは第I章の医師会活動から始まって、第II章医療制度、第III章看取り教育、第IV章短編小説「2030年の医師たち」、第V章委員の挨拶・感想、第VI章委員へのアンケート集計まで全部

で85ページに渡っています。ご興味をお持ちの方はこちら（[http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20120328\\_10.pdf](http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20120328_10.pdf)）にアクセスしてみてください。

（政策部担当理事 鈴木 伸和）